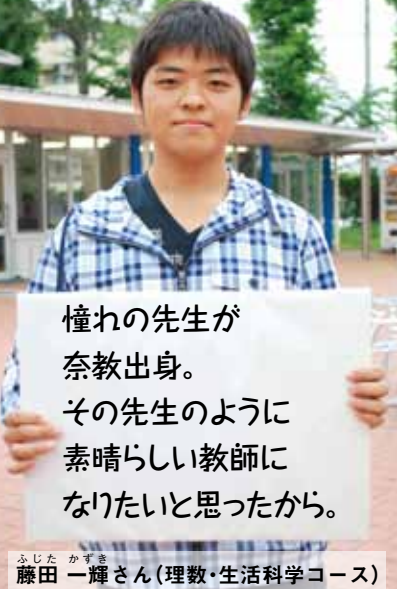


ならやま

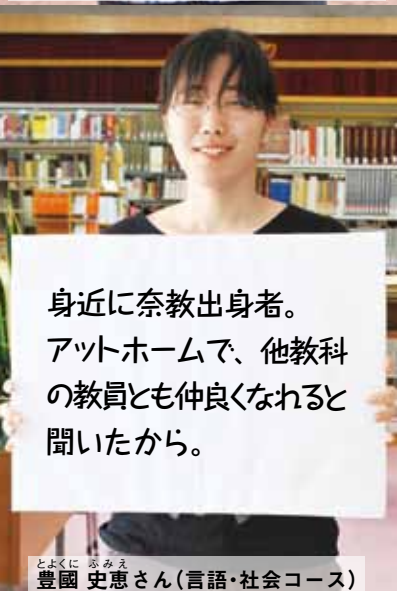
奈良教育大学 広報誌
NARAYAMA
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳



憧れの先生が
奈教出身。
その先生のように
素晴らしい教師に
なりたいと思ったから。

ふじた かずき
藤田 一輝さん(理数・生活科学コース)



身近に奈教出身者。
アットホームで、他教科
の教員とも仲良くなれると
聞いたから。

とよくに ぶみえ
豊國 史恵さん(言語・社会コース)

奈教生に 聞きました！

vol.2

期待に胸膨らませ、
4月に奈良教育大学の門を
たたいた新入生の皆さん。
なぜ、奈良教育大学を
選んだのか聞いてみました。



明るい雰囲気と、
世界遺産の宝庫の奈良に
あることが魅力的だった。

いしがみ かおる
石上 薫さん(言語・社会コース)



教員との距離が近く、
雰囲気が一番穏やかで
良いなと思ったから。
目指すは美術教師！

えちうら しほ
越浦 紫帆さん(身体・表現コース)



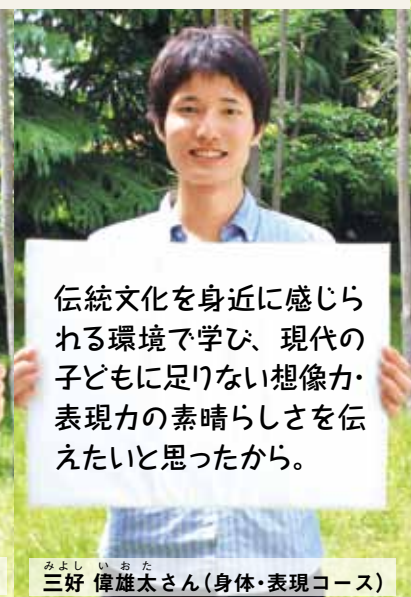
周りの環境が良いから！
中学の時に受けた様な
おもしろい社会の授業が
できる教師になりたい。

やまだ だいご
山田 大智さん(環境教育コース)



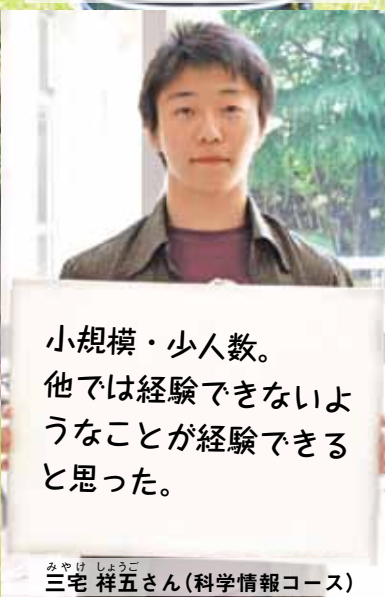
書道をやりたかったし、
オープンキャンパスでの
教員の丁寧な指導に、
とても好感を持った。

むらた ちの
村田 智野さん(文化財・書道芸術コース)



伝統文化を身近に感じら
れる環境で学び、現代の
子どもに足りない想像力・
表現力の素晴らしさを伝
えたいと思ったから。

みよし いおた
三好 偉雄太さん(身体・表現コース)



小規模・少人数。
他では経験できないよ
うなことが経験でき
ると思った。

みやけ しょうご
三宅 祥五さん(科学情報コース)



弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。
QRコード対応の携帯電話にてアンケートに回答
いただくことができます。
皆様からのご意見・ご要望お待ちしております。



広報誌づくりなど、広報活動を手伝ってくれる
学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は企画・広報室まで、
お気軽にお問い合わせ下さい。



奈良教育大学 広報誌「ならやま」
第37号 平成23年7月26日 編集／広報・情報公開委員会 発行／国立大学法人奈良教育大学
3月・7月・10月各下旬発行
〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email : kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp
※広報誌「ならやま」は大学ホームページからご覧いただけます。
<http://www.nara-edu.ac.jp/>

NEWS
教員養成の新たなスタート
平成24年4月 学部改組
ラボ・レター
社会学 渡邊伸一研究室

クローズアップ
教育のICT活用を進める
伊藤 剛和准教授
なっきょん's CLUB 企画
奈教のひみつ



CONTENTS



- 2 緊急特集
今、私たちにできること
～子どものこころの理解とケア～
- 5 NEWS
教員養成の新たなスタート 平成24年4月 学部改組
～資質能力の高い教員の養成～
- 9 羅針盤
平城高校・高田高校との教育連携事業
- 11 ラボ・レター
社会学 渡邊伸一研究室
- 12 クローズアップ
教育のICT活用を進める伊藤剛和准教授
- 15 なつきょん's CLUB企画
奈教のひみつ
- 17 hito・あれ・これ
書道の教員として活躍する真鍋典子さん
- 18 留学生レポート
ロック・ヘイブン大学(アメリカ) 的場雄樹さん
- 19 キラリ☆奈教生
3名の学生が、性別にとらわれず大切な人に想いを伝えるイベントを実施
- 20 プカツ魂!
陸上競技部／茶道部
- 21 キャンパスニュース
- 22 奈良に息づく仲間たち
- 23 奈教生に聞きました!
だから奈教にしました

ブックレット紹介

奈良教育大学出版会より、新たに以下の3点が出版されました。
定価：各1,000円(税込) 奈良教育大学生協のほか、関西圏の書店で購入できます。



『世界遺産教育は可能か』
―ESD持続可能な
開発のための教育をめざして―
田淵 五十生 著



『食べる力は生きる力』
―クッキングからはじめる食育―
鈴木 洋子 著



『バルシユール』
―幼児のための
ボール遊びプログラム―
ハイデルベルク大学
スポーツ科学研究所
特別非営利活動法人
バルシユールレジャパン 著

緊急特集

今、私たちにできること

～子どものこころの理解とケア～



Interviewee
教育実践開発研究センター
准教授 市来 百合子

Q

今回の震災で心理的ダメージを受けた子どもたちの
こころの状態について教えてください。

そうですね。まずこころの状態をどのようにとらえればよいかということからお話したいと思います。心理的ダメージの構造について、整理したものが表1です。

二次被害 2 と 3		
1 喪失体験	2 トラウマ (恐怖体験)	3 現実の ストレス
4 もとからの課題		

表1 心理的ダメージの構造

まず喪失体験ですが、今回の震災では人、物、町など知っているものが全て失われました。ここから回復するには、否認→絶望→喪の作業→受容という過程が必要で、それには時間がかかります。宗教でも、四十九日、三回忌、何回忌と喪の作業が取り込まれていますよね。つまり喪失した対象を自分のこころの中に生かしていくためには、時間の経過が必要なのです。

今回の震災では親を亡くした子どもが数多くいると聞いています。当然のことですが、この子たちが一番つらいと想像するでしょう。しかし、抱えていそうだからといって、すぐにカウンセリングを勧めても話し

出さないことのほうが多いのです。一番大事なものを亡くした場合は、しばらく話さない期間や表現しない期間があるのです。死別による喪失では、3カ月過ぎてからが本当につらいと言われますが、それにも個人差があるので個別に対応し、こちらで勝手に悲しいのをなんとかしようとしてはいけません。

そして二つめは、トラウマ（恐怖体験）であり、それは記憶とつながっています。何かトラウマがあって、その後と同じような場面に出くわしたときにワァーとパニックになって机の下に潜り込むなどというシーンを映画などで見たことがあるかと思いますが、それがフラッシュバックと言われる現象です。心の中で整理されずに記憶が無意識のうちに侵入してくる、いわゆる再体験、侵入体験というものです。今回は地震、津波がトラウマ体験になりました。私が現地に行った時は、2カ月たっても同じような警報音、あるいは大きな音が鳴った時に、具合が悪くなる生徒もおられました。今後はプール学習などにも配慮が要る場合が出てくるかもしれません。

また、震災後にTVで放映されていた中に、幼い子どもたちの「地震ごっこ」と

か「津波ごっこ」といったものがありました。これらはポスト・トラウマティック・プレイと呼ばれるもので、子どもたちが自分の心の中で行う自己修復の行為の一つです。この遊びは、子どもたちが今の場を安全だと感じていることの証でもありますので、むやみに止めなくてもいい場合も多いです。ただ、本人の中でコントロールを失っているように見える場合は、優しく制止していったり、遊びを本人がコントロールできるように介入する必要があります。

さらに、現在の子どものこころのダメージを考える時、震災後の現実(生活)のストレスも加わります。例えば震災後によその地域へ引っ越した子は、これまでの環境とすべてが変わってしまっているわけですね。もちろん避難所にいる子たちもそうです。そうした現実の生活ストレスがあるということ。そしてさらに、震災以前から何か精神的な課題を抱えていたとか、発達障害があるということも当然影響が出てきます。心理的ダメージとは、これらの要素が複雑に合体して起きるものなのです。そのため、いろいろな角度からその子の状態をみていくことが必要です。



Q

周囲の大人は、どのように対応すればよいのでしょうか。

今の状況をPTSD（心的外傷後ストレス障害）と呼ばれる医療の症状の対象に移行させないためにも、まわりの大人の不適切な対応による二次被害の部分を最小限に抑える必要があります。まず、当然のことですが、受容や共感といったカウンセリングマインドをもって接することが大切です。相手のことを受け止め、寄り添っていくという姿勢です。また、こちらのペースで聞きすぎない、表現させすぎないことも重要です。例えば、こちらが子どもたちの状況を知りたいからといって、一斉に「地震について」という作文を書かせたり、半強制的な雰囲気の中で津波の絵を描かせたりしてはいけません。震災の直後にそれをさせると、恐怖体験を再体験してしまいますし、それは被害体験でしかありません。むしろ時間の経過も鑑みながら、その子が安心できる相手に、大丈夫という範囲内で話していったり、表現していくことが重要なのです。こちらはそのような環境をしっかりと整えて、子どもが主体的に語れるように手伝うのです。それによって恐怖反応を伴ったつらい体験が通常の記憶に変容し、つらい過去が受け入れられるくら

いの過去になっていくのです。

接するときには、知らず知らずに相手を傷つけてしまうような言葉にも注意してください。「命が助かったのだから良かったじゃない」という励ましは、恐怖体験を無視した言葉のように聞こえてしまう場合があります。

また「世の中にはもっと大変な人もいますよ。済んだことは忘れて前に進みましょう」なども言ってしまいそうですが、トラウマは本人の意識と関係なく侵入してくるものですから、苦しめるだけです。他にも「元気を出さないと亡くなった人が悲しみますよ」とか、「思ったより元気なので安心しました。」などは、自分中心の発言ですね。元気でいてほしいという気持ちは分かりますが、言われた側はそれ以上つらいと言えなくなってしまいます。「○○ちゃんの分も頑張るなさい」「こんなことに負けていてどうするの」などの言葉も控えるべきでしょう。

皆さんは、「私だったら、そんなひどいことは言わない」と思うのでしょうか。でも夏から秋にかけて、まだぐずぐず引きずったりしているように見える子がいると「もう他の子はみんな頑張っているよ。

いつまでも後ろを振り向いていてどうなるの？」とつい言いたくなってしまうかもしれませんね。でもそこには、個人差があるということを理解してください。今は「がんばれ日本」ばかりですが、後で述べますが頑張る方向を示す中にも、「がんばらなくてもOKだよ」と後ろ向きを受けとめる姿勢を意識することが非常に重要なのです。このあたりは、支援者である大人の力量が問われるところですし、しっかり考えてほしいところです。

一般的な子どもとの関わり方であれば、基本的にはいつもやっていることをそのまま続けていけば結構です。ただその際に、少しだけ丁寧に見てあげたり、いつも増してゆっくり聞いてあげたりしてください。そしてもし本人が話し始めたら、その主体性とペースを尊重して、必要ならプライバシーの保たれる部屋に移動するとか、「このままお話しを続けても大丈夫？」などと、途中で確認をしながら聞くとよいでしょう。



Q

最後に、ボランティアに行く学生にひとことお願いします。

何より重要な点は、継続して関われない支援者は、被災者の心に直接深く関与しないということです。役に立ったという感じを持たなくていいのです。無力感を抱えて帰ってくるくらいがちょうど良いと思います。もちろん学生はカウンセラーではないので、気張って「こころ」のケアをしようなどと考える必要はありません。むしろ本学であれば、教育大の学生だからこそできることがあるのです。わからないことがわかるようになるとか、一緒に勉強するとか、ワクワクしながら一緒に遊ぶとか。実は、そうした日常を積み重ねていくことがとても大切なのです。

今回のような事態に直面すると、学校の役割というものを改めて考えさせられます。学校は子どもたちにとって、やはり安定した場所、そして正常な場所です

ね。毎日同じ生活を保障する場所だからこそ、子どもたちはそこで日常的な安心感を得ることができるのです。そしてそのような中で、内に込めていたものを自然に語ったり、何かの機会に少しずつ表現しながら、回復へと向かっていくわけです。個別にカウンセリングが必要な子どもたちも当然出てきますが、そうじゃない子どもたちは日常の中で回復していきます。ですから、教育大の学生がボランティアに行くのであれば、勉強やスポーツ、遊びなどの面で子どもたちのプラスの面、つまり「頑張る日常」の面を支えてあげてほしいと思います。

最後に、からだ資本ですから、リラクセーションの方法を身に付けていくといいですね。また、余裕を持って子どもたちに接するためにも、いろいろな参考文献に目を通しておくといいでしょう。



ボランティア研修会に参加した学生の声



教育学部学校教育教員養成課程
言語・社会コース 4年生
岐阜県立大垣南高等学校出身
さとう えりこ
佐藤 恵理子さん

今、私たちがすべきことは、知的防衛だと考えます。この研修で、スポーツや遊びで子どもたちに、感情のコントロールを教える大切さを学びました。被災児の「地震ごっこ」について新聞で知り、ボランティアに限らず子どもと共に遊び、力になりたいと思います。



教育学部学校教育教員養成課程
身体・表現コース 4年生
愛知県立半田東高等学校出身
さかきばら えま
榊原 衣麻さん

私はゴールデンウィーク中に気仙沼市にボランティアに行きました。活動中、現地の人のかかわりの中で、自分の言動に不安を感じることもありました。今回の研修では改めてかかわり方や注意する点を確認し、学ぶことができました。



大学院専門職学位課程
教職開発専攻 1年生
きのした ともあき
木下 智彰さん

市来先生の震災後の現在の子どもの実態をもとにした「津波ごっこ」などのお話は非常に勉強になるものでした。今後もこうした講演を聴くことのできる機会を設け教育者として、一人の人間として被災地と子どもたちの今後を考えていきたいです。

また、関西へと避難してきた子どもたちや実際に被災地に赴き子どもと触れ合う機会を得、少しでも子どもたちのこころに働きかけを行っていきたくと考えています。

ボランティア・サポート・オフィスの紹介



ボランティア活動の情報及び学生同士の情報交換の場として教育実践開発研究センター内に設置しています。一般ボランティアについて相談員を配置していますのでお気軽に訪ねてください。





教員養成の 新たなスタート 平成24年4月 学部改組

資質能力の高い教員の養成

Interviewee

副学長（企画担当） 生田 周二

教員を目指す学生のための「学校教育教員養成課程」と多様で広域的な専門的知識の獲得を目指す「総合教育課程」の二つの教育課程により、優れた人材の育成に携わっている本学が、平成24年4月から、「総合教育課程」の募集を停止して、教員養成中心の大学として生まれ変わります。

学部改組を委員長としてまとめ上げた生田周二副学長に、その核心を聞きました。

教員としての資質能力をしっかりと養成し、
社会の期待に応えるために

中教審答申『今後の教員養成・免許制度の在り方について』では、「社会の大きな変動に対応し、国民の学校教育に対する期待に応えるためには、教員に対する揺ぎない信頼を確立し、国際的にも教員の資質能力がより一層高いものとなるようにすることが極めて重要である」とされています。国立の教員養成大学として本学の果たすべき責任は大きく、社会が求める教員を養成する布石の一つが、今回の学部改組なのです。

現在

学校教育教員養成課程

総合教育課程

それぞれの未来を
目指す

平成24年4月入学生より

学校教育教員養成課程

- ・教育発達専攻
- ・教科教育専攻
- ・伝統文化教育専攻

全学生が
個性輝く教員
を目指す

Question Q. 今回の学部改組に至った背景やその理由についてお聞かせください。

国立の教員養成大学として、学校教員を中心とする高度専門職業人養成を柱にその責務を果たしていきます。

大学の「機能別分化」…
「高度職業人養成」を中心的機能に

まず最初に、国立大学をめぐる状況からお話したいと思います。

皆さんもご承知のとおり、文部科学大臣の諮問に対応して教育の重要課題を審議する機関として中央教育審議会（以下「中教審」）が設置されています。この中教審には、扱われる教育課題に応じていくつかの分科会や部会があって、中でも、大学分科会、教員の資質能力向上特別部会での審議や答申は、国立の教員養成大学である本学運営にも大きな影響を与えることになります。

平成17年1月の中教審答申「高等教育の将来像」では、大学の「機能別分化」が提起されました。これは、各大学が自らの選択に基づき特定の機能を重点化し、個性化・特色化を図ることをもって、我が国全体として大学の多様性を確保するという考えです。

この背景には、大学のユニバーサル化に伴う多様化の進展や国の財政状況の深刻化などがあって、「大学とは何か」といった本質の検討や、高等教育機関として「大学が保有する“資

源”をいかに効率的・集中的に投入するか」が課題となってきたといえます。

また、平成18年7月の答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」では、教員養成において、「教員に対する揺ぎない信頼を確立し、国際的にも教員の資質能力がより一層高いものとなるよう、より質的水準の向上を図るべき」ことが提起されています。これに応えるため、本学では、平成20年4月に教職大学院を設置したほか、文科省の競争的資金等の獲得により実践的教員養成プログラムの開発に取り組んできました。

先に述べたとおり、厳しい財政状況の中、大学の機能別分化の方向性を明確にすること、つまり、これまで積み重ねた教育研究の成果や実績を“選択と集中”の観点から総合的に見直し、再点検することが求められてきました。このため本学ではこれらを協議するための委員会を設置し、約2年間にわたって検討し、その結果、「高度専門職業人養成」を柱に、教育学部を学校教育教員養成課程に一本化して、“専門職業人としての教員”を養成することに大学を方向づけていくこととしました。



Answer



総合教育課程の実績・成果を集約して、教員養成大学として特色ある教育を進展させていきます。

Answer

総合教育課程の実績・成果の継承

今回の改組で、総合教育課程の募集停止は、大学にとって苦渋の決断でした。

いわゆるゼロ免課程といわれる総合教育課程の前身は、平成7年4月に設置された総合文化科学課程です。教員養成課程における入学定員を削減し振り替える形で入学定員85人でスタートしました。当時、教員採用の減少傾向が続いており、教員に限らず幅広い意味での教育者を養成することとしたわけです。

既に、総合文化科学課程の創設からこれまで17期にわたって学生の皆さんを受け入れ、教育環境・設備面でも整備が進められました。この間、環境教育、文化遺産教育など、これまで本学では扱ってい



なかった新たな分野を開拓するなど、教員養成の潜在的能力を引き出せたと考えています。

これらの成果を“資源”として教員養成の高度化に転化し、来年度から学校教育教員養成課程の新たな専攻の設置や授業科目、特色プログラムとして生かすことになります。

具体として、文化財・書道芸術コースは、新専攻「伝統文化教育専攻」として再出発します。「古都奈良の文化財」をはじめ3つもの世界遺産を有する“奈良”にあって、伝統文化・文化遺産と教員養成の架け橋として大いに期待されています。この専攻には、書道文化の伝統を継承する書道教育専修、文化遺産の保護と活用を柱とする文化遺産教育専修を置き、明確な形で受け継ぐこととしました。また、環境教育コースや科学情報コースで開設してきた授業科目のいくつかは、社会科教育専修や数学教育専修、理科教育専修の授業科目として新たに位置づけることにしています。

この改組によって、総合教育課程は、平成23年度入学者が最終となります。当該課程の皆さんには淋しい思いや不安があるかもしれませんが、全ての総合教育課程の皆さんが卒業されるまで、教育の保証は大学の責務として果たしていきます。

改組後の学校教育教員養成課程の主な特徴

卒業要件として必要な教員免許状を、現在の2校種から、1校種*とした上で、教職科目や教科専門科目をさらに充実して提供します。

※教科教育専攻では、基本教科である10の専修を置いて、それぞれ小学校又は中学校の教員免許状（1種免許状）の取得を卒業要件とします（加えて必要な単位を取得すれば、他の校種の免許状も取得可能です）。

※実践的能力を高めるため、教育実習を中心に入学時（新設科目「教職入門ゼミ」）から最終学年（「教職実践演習」）まで継続した教職実践科目を展開します。

※新科目の「板書実践指導」を開設し、教員に求められる板書にスポットを当て、チョーク文字のきれいだだけでなく、構成、わかりやすさなど習得します。全学生に必修化するのは全国初。

総合教育課程で培った教育研究成果を生かして「奈良」の伝統・文化遺産と教員養成をつなぐ『伝統文化教育専攻』を設置します。

※総合教育課程での教育研究成果は、そのまま学校教育教員養成課程で受け継ぐこととし、特に「奈良」の伝統文化・文化遺産に注目して、“伝統文化教育専攻”に、書道教育と文化遺産教育からなる2つの専修を設け、地域の特性を活用できる教員の養成を目指します。

個性豊かな教員を育てるため、理数の強化支援や特別支援教育、食育など特色ある教育プログラムを開設します。

※希望により、高度な理科・数学の教育や、特別支援を柱とする教育など、パッケージ化された教育プログラムを受講することができ、将来、個性豊かな教員として一層の活躍が期待されます。

※教育発達専攻特別支援教育専修は、特別支援学校1種免許状と小学校又は中学校の1種免許状の2校種



入学時から目指す学校教員を明確にしたうえで、個性輝く大学生生活4年間を設計してほしい。

Answer

教育指導体制をより明確に

現在の学校教育教員養成課程では、卒業要件として、例えば、言語・文化コースでは、小学校教諭1種免許状と、中学校教諭の教科（例えば国語）の1種免許状を取得することとしています。これは、平成11年4月の学部改組に併せて導入されました。

この背景には、平成10年6月に施行された教育職員免許法の改正があります。社会状況の複雑化・多様化に伴い学校現場の課題に対応できる教員として実践的指導能力の向上に資するため教職科目の充実を図ることになりましたが、一方で教科科目の要件単位の緩和が行われました。

この改正を受けて、学校教育教員養成課程の各コースに設定された標準履修表に従い単位を修得すれば、卒業時に2校種の教員免許を取得できるようにしましたが、必修科目が増えたことで、履修選択の自由度が制限されたカリキュラムとなっていました。

卒業要件としての教員免許を1校種とすることで、入学段階から目指す学校教員がより明確になり、指導する大学教員や附属学校の教員にとっても緻密な教育指導体制がとれることにつながります。

質保証…教員養成カリキュラムの可能性

今回の改組では、いかにして各学校種に応じた教員を養成していくのが大きな課題でした。これを実現するため、本学独自の「新任教員に求められる資質能力目標に基づく教員養成のためのカリキュラム・フレームワーク」に基づき、より効果的な学習ができるよう再編することにしました。

教職科目の履修を例に説明しますと、入学直後の第1学年で、幼稚園から小学校、中学校期における

子どもの成長・発達を通して系統的・横断的に「教育」について学んだ後、第2学年では、学校種に応じて、子どもたちが深く理解できる授業法やそれに必要なカリキュラム設計や編成の方法を学びます。

第3学年からは、学校種に応じて、各学校等の教育現場における教育上の様々な課題に対応できるよう、子どもたちの心のケアサポートなど、より実践的な指導法などについて学んでいきます。

つまり、新任教員が備えておくべき、「教育的力量」、「実践的力量」、「臨床的力量」、「対応力」に重点を置いて、基礎的・系統的な学習と教育実習などを通して理論と実践を学び、目指す学校教員に向けて自らを成長させることができます。

特色ある教育プログラムなどの整備

先に述べたとおり履修上の制限がある程度緩和され、自由度が増します。その自由度を生かして、自らの個性を伸ばす学習や活動に充てていただきたいと思います。

卒業要件である免許状のほかに、第2の免許状を取得することが可能となるよう配慮することとしています。また、本学に設置している理数教育研究センター等が学部と連携して、特色ある教育プログラムを開設し、より専門性を高められるよう準備を進めています。

各種資格取得のほか、学校現場でのスクール・サポーター、ボランティア参加や、海外留学、短期語学研修などもその選択肢に入るものと思います。

学生の皆さん自身が入学時から目指す学校教員を明確に、個性輝く大学生生活4年間を設計してほしいと願っています。

本学の最大の魅力は、歴史に育まれた小規模大学であること。言い換えれば、学生・教職員が身近な存在であることです。古都奈良の文化遺産に包まれた素晴らしい教育環境のもと、悠然とした自然と歴史文化を肌に感じ、心豊かな教育者へと歩んでいける、まさに理想のキャンパスです。

来春、皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

受験生の皆さんは、本学の学部改組を突然聞かれて、戸惑っておられることと思います。

皆さんが、専門職業人として個性輝く人間力を持った教員となれるよう、新たなカリキュラムを展開していきますので、是非、“教員になる夢”を大きく持って本学を志願していただきたいと思います。

Answer

お問い合わせ

■奈良教育大学 企画・広報室
TEL：0742-27-9303
E-mail：kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

入試情報は、本学ホームページから「奈良教育大学教育学部の改組について」でご確認ください。





高大連携事業

「平城高校・高田高校と本学の教育連携事業」 ～教員養成を柱に高校と大学をつなぐ～

奈良県下には、教育コース(将来、小学校教員を目指す生徒を対象としたコース)を持つ公立学校として、平城高校(奈良市朱雀)、高田高校(大和高田市)の2校があります。ともに奈良県の教員養成の新しい形として、キャリア教育をメインに平成18年度から特色選抜として40名の生徒を受け入れています。

それらの教育課程においては、種々特色ある取り組みが行われており、本学も平成19年1月に平城高校、平成23年4月に高田高校の両校と「教育実践」及び「小学校教員養成」を柱とする教育連携事業に関する協定を締結、大きく関与しています。

今回は、この高大連携事業にかかわる方々からのメッセージを通して、本学の地域貢献活動としての特色ある取り組みをご紹介します。

平城高校との 連携事業について

平城高校との連携事業コーディネーター
みやした としや
宮下 俊也
教職大学院・准教授



私自身のことを少しお話します。私が音楽の道に進むことを決断したのは、高校時代、音楽大学の講習会に参加した時でした。当時は「高大連携」という言葉もありませんでしたが、私は大学の専門家から音楽の構造に対する専門的な知識を得たことで、幼少期に経験した音楽に対する感動の理由がわかり、それから音楽を専門的に学ぶ強いエネルギーが生まれました。多感で、人が知らないことを知って少し背伸びをしたい時期に、高校と大学が連携して、学問や研究の面白さを多くの高校生に等しく経験させることは、私の経験からも意味のあることだと思っています。

今年で5年目になる平城高校との連携事業の内容を紹介しましょう。一番大きな活動は、教育コース3年生に課せられて



いる卒業研究レポートの作成を、本学教員がマンツーマンで支援するものです。新年度が始まると、高校生が抱えるテーマが寄せられ、その内



本学教員や院生と交流する平城高校生



高大連携による教員養成シンポジウム

容にかかわる研究をしている本学教員とのマッチングを行います。例えば「小学校体育でのマラソンを楽しむ方法は?」「クラスで生き物を飼うことについて」「ONE PIECE」から考えるマンガが子どもに与える影響」等、教育に関する高校生ならではの素朴なテーマが多くみられます。これらはおそらく、教育コースのカリキュラムにある学校インターンシップを通して得たものでしょう。自らの経験から疑問を見付け、専門的知見と解決のための方策を大学教員から得、自分自身の意見として結果をまとめ発表するプロセスと、その成気感には貴重なものであると思います。

私はコーディネーターとして、これまでこのマッチングに苦慮したことはありません。本学には教員による研究資源と、高校生に対する教育愛が豊富にあることを感じてうれしい仕事になっています。また、この支援や研究成果発表会では、大学院生や学部生も参加し、共に刺激を与え合い、文字通り「教育連携」になっています。

この他にも、本学教員による出前授業や、絵本の読み聞かせ演習などがあり、本年2月には教育コースの先生や卒業生を交えたシンポジウムを行って、これまでの成果と今後の発展を確認しました。この事業がさらに推進され、すぐれた教員の育成に寄与し続けることを願っています。



研究成果発表会で発表する平城高校生

教育コースと教育大での学び

私は1回生の時からスクールサポートに行っています。時々、子どもとの接し方に悩むこともあります。そんな時は教育コース時代を振り返ると、小学生と初めて出会った時の素直な喜びや感動が蘇り、頑張らないと!と思います。同時に、あのころできなかったことができるようになったなど、成長を実感することもあります。教育コースでの経験は、今の私を励まし、教育大での学びの糧となっています。今後も子どもたちと過ごす喜びや感動を忘れずに、精一杯取り組んでいきたいです。



教育学部
学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 3年生
やまもと さ や か
山本 紗哉加さん
平城高校教育コース
1期生

高大連携で大学に 期待するもの

奈良県立平城高等学校
まちだ けんいち
校長 **町田 健一氏**



教員を志望して平城高校教育コースに入学してくる生徒の大半は、自分の小学生時代(保幼、中)にその「思い」の起点があります。損得や打算の入り込む余地のない、純度の高い志望動機が特徴的です。ここ数年、「キャリア教育」による勤労観や職業観の育成が叫ばれていますが、空虚な印象がぬぐいきれません。一般的な人事、経理、企画、広報、営業などオフィスや外勤の仕事を想定すると、仕事内容の輪郭さえ見えない状態での取り組みが普通だからです。

教員の仕事はその重要さ、難しさにおいて他の仕事以上かもしれませんが、表面的には輪郭が見え、また、生徒側からですが何年間も具体的な事象を体験しています。一般的な仕事の場合と決定的に違うのは、「思い」や「具体的な事象」を抽象化、一般化して理解する、この方向性での一歩進んだ「キャリア教育」ができることです。生徒たちが視野を広げ思考を深める、このスケール感の育成を大学に期待しています。

奈良県立平城高等学校
奈良市朱雀 2-11



昭和55年4月開校。
全日制・普通科、生徒数約1,240人。
「創造・敬愛・堅忍」を校訓に、「真理の追究」、「人権尊重の精神」を基調として、豊かな創造性、自他を敬愛する心を育み、進取の気概に富んだたくましい実践力を養うことを教育目標としている。
最寄り駅: 近鉄京都線「高の原」

卒業研究レポートの指導を受けて

大学の研究室訪問はとても貴重な体験になりました。テーマは設定したものの、どのように卒業研究を進めていけばよいかわからなかった私は、研究室に入った途端、蔵書の壁に圧倒されて緊張してしまい、うまく質問できませんでした。

しかし、近藤裕先生から優しく適切なアドバイスをいただき、お陰でいろいろなことに気付くことができました。憧れの大学の先生にご指導いただけたことは、今後の研究や受験勉強の励みとなります。ありがとうございました。



平城高校教育コース
3年生(4期生)
たかはら けんご
高原 健伍さん

高田高等学校との 連携及び 本学の高大連携の展望

学長補佐(地域連携担当)
かたおか ひろかつ
片岡 弘勝
教授



本年4月6日、奈良県立高田高等学校と本学との「教育連携」協定の締結式が、奈良県教育委員会教育委員室において行われました。(P21 関連記事) この協定の主旨は、平城高校との「教育連携」と同様に、本学が実施する教育実践力育成に関すること、高田高校教育コースの教育支援に関すること等について連携協力を進めるというものです。具体的な取り組みとしては、1年生対象の大学教員出張講義(「現代教育の課題」6月)、2年生による本学訪問(大学概要等の説明を受け、施設見学、体験的、実技的な内容の講義を受講・11月)、3年生対象の大学教員出張講義(「学級経営」9月)が計画されています。担当する大学教員にとっては、支援するのみならず、高校生の新鮮な発想や課題意識等から多くの刺激を得る機会となるものと期待されています。

今後の本学と平城高校・高田高校との連携については、大学も高校も、学生・生徒も教職員も、貴重な交流の機会を活かして、双方向に一層の刺激を与え合うことができるよう、太くて濃い連携協力を目指して検討が進められています。



大学教員出張講義の様子

奈良県立高田高等学校
大和高田市磯野東町 6-6



大正10年4月にその前身である北葛城郡立奈良県高田高等女学校が開校。
昭和23年4月に学制改革により現在の校名に改称。全日制・普通科、生徒数約1,100人。
「自強・和敬・創造」を校訓に、「自主自立、自由闊達」の校風と「文武両道」の伝統を受け継ぎ、新しい時代の流れを踏まえ、進取で創造的な教育を推進することを教育目標としている。
最寄り駅: 近鉄南大阪線「高田市」





From

教育学部総合教育課程
環境教育コース 4回生

ただ こういちろう

多田 宏一郎 さん

私立清風南海高等学校出身

かい どう らん ま
快刀乱麻
身の回りの“疑問”から生まれる『社会学』

皆さんは、『社会学』と聞くと、どんな学問を想像しますか？“社会”というキーワードから、何となく社会科と関係があるのかな…、と思う人が多いと思います。ズバリ、一言で述べるとするならば、社会学という学問は、人の住む『社会』のあらゆる問題点を客観的に考察する、というものを指します。とても広い領域ですから、これが社会学だ！と定義するのは、実はゼミ生でも結構難しいんです（笑）。逆に言えば、自分の「なぜだろう」というちょっとした疑問から、論文テーマを絞っていくことも可能です。担当教員の渡邊伸一先生は、学生の意見を丁寧に聞いてくださり、学生の論文研究やフィールドワーク調査など、きめ細やかに指導してくださいます。また、研究室では常に、「他人の意見を真摯に受け止め、自分の研究の糧とする」ということをモットーにしており、興味のある関心や出来事に関しては学年の垣根を越えて、徹底的に議論を行うことができます。

ひゃく せつ ふ とう
百折不撓
ゼミで勉強すること

地域環境専修では、3年生になると、社会学、政治学、地理学の3つの研究室にそれぞれ分かれます。それぞれの研究室で研究した成果を、4年生の2月に卒業論文発表という形で専修全体に還元します。1、2、3年生もその場に参加し、早い段階から、自分の興味があることを探したり、上級生がどのような卒業論文を書いたかなど知ることができます。私たちの専修は、1学年が12人程の小規模なもので、かつ構成員も個性派ぞろいなので、アットホームで楽しい集団となっています。

ゼミは、学生主体で行われ、それぞれの興味・関心に合わせた先行研究を全員で調査し、見聞を広めています。ここでは、自身の興味・関心を他のゼミ生に知ってもらうことは勿論、自分の知らなかった事実や考えを吸収し、研究の参考にすることができます。一見、これだけだと「堅苦しい」「難しそう」などと思われるかもしれませんが、実際のゼミの場では、絶えず笑いがおこっており、気軽に発言できるような環境作りも十分にできています。自分の考えを持つということは、生きていく上で非常に大切だと思いますが、それ以上に、自分とは違う考えを持つ人たちの意見を聞くということがどれだけ尊くて、素晴らしいものか、感じるすることができます。

ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教員養成課程

●教育・発達基礎コース

●言語・社会コース

●理数・生活科学コース

●身体・表現コース

総合教育課程

●文化財・書道芸術コース

●環境教育コース

●科学情報コース

環境教育コース 社会学

わた なべ しん いち

渡邊伸一研究室

※同研究室は、平成24年4月以降の入学への対応として、改組後の教育組織である学校教員養成課程の教科教育専攻（社会科教育専修）を分担する予定です。

しん てん どう ち
震天動地
私たちにできること

3月11日、日本を襲った天災は、人々の笑顔を奪い、そして多くの命を奪いました。いとも簡単に流されてゆく家や車、そして悲しみを目の当たりにした私は、自分の非力さと未熟さを感じました。震災や、原発問題、日本のエネルギー事情など、ここで改めてクローズアップされようとしている『環境問題』。今、私たちに求められているのは、この事実を胸に刻み、どうすれば社会が今日よりも良い明日になるのか、考えることだと思います。社会の問題点を発見し、解決へと導く…。今後、ますます注目されるであろう社会学という分野で、ゼミ生一同全力で研究に励もうと思っています。

渡邊研究室での主な卒業論文テーマ（一例）

- 琵琶湖の外来種問題の解決策に関する研究
琵琶湖における外来種駆除に関する問題点を挙げ、どのような解決策がありうるかを検討したもの。
- 校庭芝生化における課題に関する研究
学校の校庭を芝生化することにより、どのようなメリットがあり、問題点は何なのかという事を調査したもの。
- 大学で行われているキャリア教育に関する研究
若者の労働観とキャリア教育とのあいだにはどのようなつながりがあるのか、という事を調査するもの。

Student's Voice

私は自死遺族支援をテーマに卒業論文を書いています。自殺者数は年々増加しているにもかかわらず、自死遺族の支援が進んでないことを知り、もっと研究したいというのが始まりでした。3回生でのドイツ留学経験を生かして、日本だけでなく、ドイツなどを含めた広い視野で、卒業論文に取り組んでいきたいです。



教育学部総合教育課程
環境教育コース 4回生
むらた りさ
村田 莉紗 さん
広島県立広島皆実高等学校出身

クローズアップ

本学教員の研究を
詳しく紹介



教育におけるICT活用



「教育の情報化」のねらい

日本における「教育の情報化」は、1996年10月から1998年6月にかけて協議された「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」がまとめた「体系的な情報教育の実施に向けて」（第一次報告）や「情報化の進展に対応した教育環境の実現に向けて」（最終報告）から、急速に推進されるようになってきています。

この「教育の情報化」には、大きく3つのねらいがあります。ひとつは、「教科の目標達成のためのICT活用」です。教員が説明する際に手元を大きく拡大してプロジェクターで投影して見

やすく提示したり、わかりにくい現象をシミュレーションやスロー映像などを使って説明したり、個別の習熟進度にあわせた練習ドリルソフトを活用したりという、教科の目標達成のためにポイントをしばって授業の一部で効果的に活用していくものです。また、前の時間にどのようなことを学習したのかを板書や活動の様子を提示して振り返るとか、今日の授業の目当てに興味をむけるような導入部分での活用、体育など自分の動作を映像で撮影し、演技後に点検するといった活用などもあります。

もうひとつは「情報教育」です。前述の報告書で「情報教育」は、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3つの柱に整

学術情報教育研究センター

い とう たけ かず
准教授 **伊藤 剛和**

プロフィール

「教員のICT活用指導力向上／研修テキスト」
（共著：教育情報化推進協議会・
「教員のICT活用指導力向上研修」調査研究委員会）



専門は、教育学、情報教育、学習環境の構築・運用に関する研究。
京都教育大学教育学部特修理学科卒、鳴門教育大学大学院学校教育研究科修了。
現在は、子ども達に身につけて欲しい「情報教育」の推進と、大学や学校現場の教育活動を支える教育システムの開発や運用を中心に活動している。



理されています。これらは従来の教科の枠の中では体系だてて培うことが難しかった、児童生徒が自ら考え主体的に判断したり、受け手の状況を踏まえて発信・表現したり、安心・安全に情報社会で行動できるような「情報活用能力」の育成を目指しています。この児童生徒の「情報活用能力」を育成する視点から見ると、前述の「教科の目標達成のためのICT活用」は、「先生による情報活用の手本」となるものです。

最後のひとつは、「校務の情報化」です。上記のような授業を推進していくためにも、教材の作成や、児童生徒の学習状況把握をはじめ、教員間の情報共有や、地域・保護者との連携など、教員のICT活用により、より充実して

いくことを目指しています。これらの方向性は、新しい学習指導要領でも受け継がれています。各教科にICT活用の記載が増加したり、「情報モラル」の道德教育への位置づけなど、教育の情報化がさらに進む方向です。

「教育の情報化ビジョン」の方向性

2007年7月26日に発表された「IT新改革戦略重点計画－2007」では、次のような目標を設定し、具体的な政策により進めてきた結果、ICT環境のようなハードウェア整備だけでなく、学習指導要領の改訂や、教員研修など、様々な手立てにより充実しつつあります。

教育の情報化ビジョン【概要】



【文部科学省公表資料より抜粋】

- ①学校におけるIT基盤の整備
教員一人に一台のコンピュータ及びネットワーク環境の整備並びにIT基盤のサポート体制の整備等を通じ、学校のIT化を行う。
- ②教員のIT活用指導力の向上
教員のIT活用指導力の評価等により教員のIT活用能力を向上させる。
- ③児童生徒の学力向上のための学習コンテンツの充実
自ら学ぶ意欲に応えるような、ITを活用した学習機会を提供する。
- ④児童生徒の情報活用能力の向上
教科指導におけるITの活用、小学校における情報モラル教育等を通じ、児童生徒の情報モラルを含む情報活用能力を向上させる。



そして、2011年4月28日文部科学省より発表された「教育の情報化ビジョン」では、「21世紀にふさわしい学び・学校と教育の情報化の果たす役割」として、前述の3つのねらいに関連づけながら、2020年度までの行程が示されています。

教員のICT活用指導力

このように、学校のICT環境の充実を目指す一方で、教員のICT活用指導力についても、その達成状況が毎年調査されてきています。

2007年から、調査の基準がより具体化・明確化し、5つのカテゴリで18の項目のチェックリスト、4段階の選択肢（わりにできる、ややできる、あまりできない、ほとんどできない）として、調査されるようになりました。

教員一人一人が、主観尺度で自己評価し、今後の自己研鑽に活用してもらうように考えられていることもあり、環境未整備のため未経験の教員にとっては質問の授業イメージがわかりにくく回答しにくいという声が多かったようです。また、この評価をする際、教員自身が、周りや同僚との相対評価で行うことが多くあるため、客観的な評価ではありません。そのため、同一地域内でも、この自己評価を参考にして研修計画を組み立てるといったことが行いにくいようです。

また、多くの研修が、教員の自主性を尊重し、教員の興味・関心で受講選択されるため、どのような研修を受ければ自

己の能力の苦手補強になるのかが不明なことが多いようです。そこで、平成19年度に教育情報化推進協議会が文部科学省委託事業として実施した先導的教育情報化推進プログラム「教員のICT活用指導力向上のための形成的な評価方法の開発と実用化」では、そのメンバーとして教員研修に役立つ成果物を開発しました。3年間の取り組みでしたが、多くの地域の教員研修の実態を元に、センターでの一斉型や校内研修で利用可能な研修計画の立案や、テキストなどの開発とともに、それらの研修で受講者である教員自身が自己を形成的に評価できる手法や指標の精査も行いました。成果物としては、研修テキストや講師用マニュアル、研修テキストの朗読コンテンツ、講師用プレゼン資料、モデル研修のビデオや研修計画などとともに、「教員のICT活用指導力」の規準表や基準表を整えています。

教員のICT活用指導力規準表の開発と推進

文部科学省が2007年度末に公表した「教員のICT活用指導力の基準」の内容に準拠しつつ、情報教育・ICT活用スキルといった項目などを加え、6つの大項目(1.教育の情報化、2.情報教育、3.ICTを活用した授業、4.情報モラル、5.校務の情報化、6.ICT活用スキル)と22の中項目に整理しました。諸外国のものも参考に検討した際、「ICT活用スキル」といった項目が残るべきかどうかを

かなり検討しましたが、日本の現状からは位置づけたほうがよいという結論で進めています。

レベルとして、レベルA（大学生・新任教員）、レベルB（一般教員）、レベルC（ICTリーダー教員）、レベルD（指導主事）の4段階に整理していますが、メインと捉えているのが、レベルB（一般教員）です。これを中心に、その前後のレベルを考えています。

また、それぞれの規準に対応させて、テキストや演習などの個々の到達状況を基準として準備しています。その基準の蓄積で、現在の到達状況や、文部科学省の18項目のチェックリストで見たときの達成状況がグラフ化されて確認できるような研修支援サイトの整備も行っています。

開発した研修テキスト類は、利用される学校現場のニーズとして、教員がレベルBになることを目指したものにしています。タイミングよく発表できたこともあり、全国教育委員会での研修以外に、全国の教員免許更新講習や、ICT支援員の研修などにも活用頂けているようです。

しかしながら、作成後3年経過していることもあり、その後に発表された公的資料などの追補作業や、他のレベルをターゲットにした研修テキスト類の必要性も感じています。

今年は、機会があり奈良県・奈良市に協力させて頂き、レベルC（ICTリーダー）の研修モデルの開発・実践を進めています。その成果も、是非活かしていきたいと考えています。

奈教の ひみつ

～学内施設紹介～

学生広報スタッフ
“なっきょん's CLUB”
企画

ン？
なんだあれは…
よ～し
行ってみよう！

理科1号棟の前

①

国際交流室

ラウンジ

なこみ

次に紹介するの
は、ココ…
講義棟一階にある
国際交流室だよ！

⑦

⑧

Welcome to our library!
(In English)
Center of my university
(In short, our campus)
We all have come
to find the joy
Let's communicate and learn!

うえるかむ…
みんな待ってて
くれたんだね！
サンキュー
ベリーマッチ…
な～んで…

ここに来れば、
なんだか急に
留学した気分にな
れるね…

そうだよ。なっきょん！
ここに来ればいつでも
留学生のみんなと友達
になれるよ。
大歓迎してくれるから、
いつでも遊びに来てね！

⑨

⑩

留学のための資料や、外国
語の本もいっぱいあるね…
今度、新館1号棟の1階に
移るらしいけど改修工事
で今は仮住まい。
また落ち着いたらみんなに
お知らせします！

大学には
楽しい施設がいっぱい。
次回をお楽しみに…

なっきょん。
天文台へようこそ。
ここは天体観測をするための
施設なんだよ。中へどうぞ！

理科教育講座の
和田先生！
おじゃまします。

おやっ？

天文台？

②

この天体望遠鏡は300mm反射望遠鏡といって、土星
の輪っかだって見えるんだ。2007年に全面改修して
天体導入支援システムで使いやすくなったんだよ。
覗いてごらん！（和田）

うわー！
こんなに大きな
望遠鏡を見たの
はじめて！

④

うわーすごく
大きく見えるよ…。

何が見えるの？
なっきょん…
まだお星さんだけど…
鼻でみてるし…（汗）

実は、本にある写真みたいにきれいに見える訳じゃないんだ。
でも、自分の眼で、今この瞬間のリアルな姿を見る。そこに
意味があるんだよ。
いつかまた、観測会を開きたいな。その時は、なっきょんも
みんなも観に来てね！（和田）

⑥



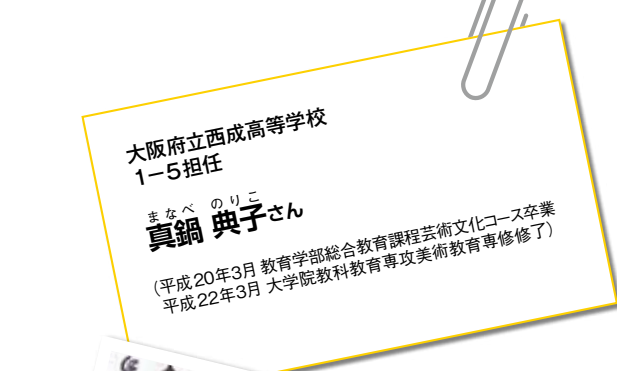
「書を通して、 人間教育がしたい」

私はこの4月から、大阪府立西成高等学校で、念願だった書道の教員として勤務しています。初任であるにも関わらず、1年生の担任をさせていただき、部活動では、部員10名の書道部の顧問として、充実した日々を送っています。

私はこれまで、通信制私立高校の非常勤講師の経験しかなく、現在の職場ではすべてが初めてのことで、わからないことだらけです。しかし、そんな私でも、『真鍋先生が一番、話しやすい。』『先生がいてくれてよかった。』と言ってくれる生徒がいます。また先日の中間試験では、ある生徒と試験前に毎朝一緒に勉強をしました。その生徒が「先生!化学Iで、いい点が取れてん!」と笑顔で報告をしてくれたことが本当にうれしかったです。生徒の笑顔を見ると、どんなに疲れていても一気に疲れが吹き飛びます。

私にとって、奈良教育大学での学部4年間と院の2年間は、まさに“書道漬け”の日々でした。高大展・回生展・学書展・教育大展など各種展覧会に毎年挑戦しました。3回生の時には、高大展で最高賞の大賞をいただき、大きな自信に繋がりました。また、学部の集大成となる卒業書作展で作品制作のために毎晩のように和室に泊まり込み、仲間と共に作品を書き込んだことは私の一生の宝ものです。その中で、「1枚でも多く書き、少しでもいい作品をつくりたい!」という《粘り強さ》《あきらめない執念の心》を学んだように思います。また、院1回生の夏には、福光先生及び学生有志7名と共にオーストラリアに行き、現地の小学校などで書道の授業をさせていただいたことも、貴重な経験となりました。

現在、私がかかわっている生徒たちは複雑な家庭環境に育った子が非常に多く、一人ひとりが抱えている問題は山積しています。思い通りにいかないことの方が多いのは事実です。しかし、大学時代のさまざまな経験の中で『書を通して、人間教育がしたい。』と希望した教師への道。その原点の思いだけは決して忘れず、これから生徒と共に学び、共に笑い、共に未来を見て、共に成長していける教師に、そして生徒がもつ無限の可能性を引き出していける教師になりたいと思っています。



卒業展で発表した、自分の作品とともに



念願がかなって書道の教員として授業をする真鍋さん

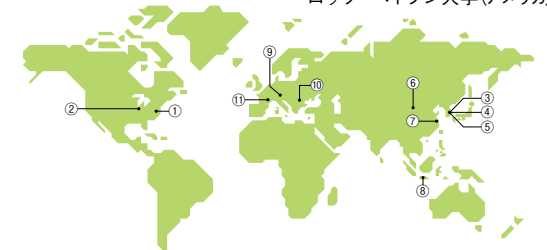
留学生 レポート



奈良教育大学では7か国11大学と国際交流協定を締結し、学生交流や研究者交流を行っています。その中でも最も交流期間が長いのが、アメリカのロック・ヘイブン大学です。1986年7月の協定締結後、25年を迎えました。今回は、そんなロック・ヘイブン大学に留学していた的場雄樹さんに話を聞きました。



ロック・ヘイブン大学(アメリカ)



- ① ロック・ヘイブン大学
- ② セントラルミシガン大学
- ③ 嶺南大学校
- ④ 公州大学校
- ⑤ 光州教育大学校
- ⑥ 西安外国語大学
- ⑦ 華東師範大学
- ⑧ インドネシア教育大学
- ⑨ ハイデルベルク大学
- ⑩ プラレスト大学
- ⑪ リヨン第三大学



✦ 留学をしようと思ったきっかけは。

中学校で英語を学習し始め、言語を学ぶ面白さに興味を持ち、本物の英語を学びたいと思うようになりました。また自らの視野を広げるため、さまざまな経験をしたいと思うようになりました。

✦ 留学する前にどれくらい語学の勉強をしていましたか。

毎日、英語に触れるように心がけていました。特にリスニングに関しては、英語のラジオを聴いたりしていました。また英検やTOEFLなどの試験にも積極的に取り組むようにしていました。

✦ 留学先ではどのような1日を過ごしていましたか。

平日は毎日授業があり、空き時間には図書館等で授業の準備や課題をしていました。週末はよく友達と一緒にパーティーやバーに行きました。またレンタカーを借りて、ニューヨークやナイアガラの滝など旅行にも出掛けました。

✦ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

英語は、誰と話す時も対等に話せるということです。日本語では敬語で話さなければならないので、特に教授や目上の方と話す時は違和感を覚えました。ちなみに、ハグはなかなか慣れるのに時間がかかりました。

✦ 留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

一番うれしかったことは、自分の英語力の上達が実感できたときです。アメリカ人の友達から英語が上手くなったと言われたり、字幕なしで映画やニュースが理解できたりしたときは非常にうれしかったのを覚えています。大変だったことは、言葉の壁はもちろん、ルームメイトとの共同生活も初めは苦労しました。

✦ 留学体験をどのようにいかしていきたいと思いますか。

教壇に立ったときに、留学での経験や新たな視野を活かして、子どもたちに言葉のおもしろさや世界の広さなど伝え、彼らが世界に目を向けるためのきっかけが与えられるような教師になれるようにしていきたいです。

✦ 在学生、高校生の皆さんに一言。

充実した留学は、人生を変えと言っても過言ではないです。もちろん留学中は大変なこともあります。しかしそれ以上に得るものがたくさんあり、自分自身にとってきっとプラスになります。世界に目を向け、飛び立ってください。

留学先で出会った、友人たちと。レンタカー旅行やアイスホッケー観戦などに掛け、たくさんの思い出を作りました





左から郷原さん、榊原さん、鈴木さん

大切な人に心からの思いを ― チョコが伝えるメッセージ

学校現場には、自分の性のありようが他の多くの人と違うことに気づき、戸惑い、悩む児童や生徒が数多く存在するといわれています。体の性と心の性が一致しない、同性を恋愛の対象とするなど、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）として戸惑いを抱える子どもたちに、教師として何ができるのでしょうか。そのヒントとなる試みが、奈良教育大学の学生たちによって行われました。今回はバレンタインデーにあわせて、ささやかな、しかしとても意義深いイベントを実施した榊原衣麻さんと郷原晴香さん、鈴木秀介さんの3人に話を聞きました。

矢印はいっぱいあった方が面白い

「バレンタインデーのチョコレートは、大切に思っている人へ気持ちを伝えるものですね。でも、なんで女性から男性という一つの方向だけなんだろうと思ったんです。矢印はいっぱいあった方が面白いのに、と。」笑顔で話してくれたのは、イベントの発案者である榊原さん。性別を問わず大勢の学生にチョコレートを配ることを思いつき、早速小さなチョコを180個用意しました。オリジナルデザインの包装を考え、カードには次のようなメッセージを添えて。

これは「Dear チョコ」です。

“大切な人”の名前を書き込み、その人に贈ってください。

性別にとらわれる必要はありません。

あなたとその人に幸せが訪れますように。

Happy Valentine's Day!

チョコレートが人を繋ぐ

バレンタインデーは、大切な人に心からの思いを伝える日。性別など関係なく、大切な人と喜びを分かち合える日になればいい

Profile★
プロフィール

教育学部学校教育教員養成課程
身体・表現コース 4回生
さかきばら え せ
榊原 衣麻 さん 愛知県立半田東高等学校出身

教育学部学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 4回生
ごうはら はる か
郷原 晴香 さん リバーデルハイスクール出身

教育学部学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 4回生
すず き しゅうすけ
鈴木 秀介 さん 静岡県立袋井高等学校出身



配布したチョコとメッセージカード

う思いを込めたと榊原さんは言います。準備したチョコは、榊原さんとその友人の郷原さん、鈴木さんの手で、奈良教育大学の食堂で配られました。添えられたカードをじっくり読む人、このイベントを話題に友人と盛り上がる人、チョコを口に入れてからカードに気づく人など、さまざまな反応が見られましたが、何よりチョコを受け取った時のみんなの笑顔がうれしかったと3人は言います。

「私からチョコを受け取った人が、またそれを大切な人に渡す。チョコを介して人が繋がっていく感じがしました。もらう喜びとあげる喜びの両方を感じられるなんてお得ですね。」と話してくれたのは郷原さん。また鈴木さんはカードのメッセージにふれて次のように言いました。「性別にとらわれず、大切な人に渡してほしいです。その人にとっての大切な人が、異性とは限らないですから。」

性別というカテゴリー

最後に、榊原さんは「カードのメッセージを見て、性別というカテゴリーで割り切れることばかりではないと気付いてくれる人がいたらうれしい」と話してくれました。セクシュアルマイノリティは人口の3～5%いると考えられており、学校現場にも数多くの児童や生徒が存在すると言われています。周囲との違いに戸惑い、誰にも相談できずに孤立感を深めていく子ども多いとされる中、「性別にとらわれる必要はありません」というメッセージが果たす役割は決して小さくないでしょう。

バレンタインデーは大切な人に思いを伝える日。大切な人が異性であれ同性であれ、その人の幸せを願う気持ちは変わらない。そんなシンプルな、そして本質的なことに気付かせてくれる取り組みでした。

(文・中谷 いずみ准教授)

課外活動紹介

ブカツ魂！

奈良教育大学には、文化会所属13団体、体育会所属27団体の課外活動団体があり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、陸上競技部と茶道部です。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- ウインドアンサンブル
- 軽音楽部
- 華道部
- 茶道部**
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会) すぎのこ
- 書芸部
- 漫画研究会
- 歴史研究会
- 舞台工房K A T E
- 地歌寧曲部

体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部**
- 柔道部

pick up

体育会 陸上競技部

部員数 19名(男子13名・女子6名)

練習は週5回で月・火・水・金・土の日程で行っています。個人種目のためにさまざまな性格の部員で構成されているため、とても変わったおもしろい部活です。それぞれの目標を達成するためお互いを刺激しあいながら、日々の練習に取り組んでいます。競技力向上に向けた競技志向の高い部活です。

日々精進、日々克己



教育学部学校教育教員養成課程
身体・表現コース 3回生
奈良県立橿原高等学校出身
陸上競技部主将
にしたに なおき
西谷 直樹 さん

こんにちは、奈良教育大学陸上競技部です。私たち陸上競技部は、週5回練習を行っていて、その内の1～2回は近くにある鴻ノ池陸上競技場で練習しています。練習中は集中した雰囲気緊張感を保っていますが、練習以外の場ではとても和やかな雰囲気、部活後にみんなでご飯を食べに行ったり、遊びに出かけたりと、先輩・同輩・後輩共にとても仲のいい部活です。

陸上競技は、リレーと駅伝以外は個人競技であり非常に多くの種目数があるため、部活内でも個人個人が違った種目でそれぞれの目標に向けて頑張っています。しかし、個人競技であるものの練習はみんなでい、お互いに切磋琢磨し日々向上できるよう取り組んでいます。

年間の部としての大きな大会は、4月に大阪インカレ、5月に関西インカレ、8月に近国・全教、10月に関西学年別と5つあります。陸上競技の大会は設定された記録を出すことによってさらに上の大会に出られるようになっていきます。本陸上競技部にも記録を突破し、西日本



インカレという大会に出場が決まっている選手が数名います。

最後になりますが大学で部活を続けるにあたって、記録や結果を求めるのは勿論のこと、そのためには努力も必要です。しかし、それ以上に競技を愛することが大事だと思っています。そんな思いを胸に、私たち奈良教育大学陸上競技部は今日もグラウンドを駆けています。

pick up

文化会 茶道部

部員数 25名(女子23名・男子2名)

毎週、月曜日と水曜日の13時から活動しています。活動場所は、大学構内の学生会館の2階にある和室です。裏千家の先生に来ていただき、お点前を学びながら、楽しく活動しています。大学祭では着物を着て、お茶会を開催します。他大学のお茶会に行くこともあります。大学から茶道を始めた人も多く、初心者の方も大歓迎です。

茶道の魅力



教育学部総合教育課程
文化財・書道芸術コース 3回生
近畿大学附属和歌山高等学校出身
茶道部部長
こやま きよみ
小山 聖美 さん

こんにちは。奈良教育大学茶道部です。茶道部は、裏千家の先生に来ていただいて、週に2回活動しています。茶道というと堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、私たちは、時にはお喋りをしながら、お茶をいただき、和菓子を食べ、和気あいあいと活動しています。

茶道部では大きなイベントとして、大学祭でお茶会を開催しています。お茶会までに、お点前を覚え、着物を着られる

ように練習し、本番に臨みます。本番では、緊張しながらも、「一期一会」の心を大切にして、さまざまな人との出会いを楽しみ、和やかに過ごせるようにおもてなしています。

また、他大学からお茶会のお誘いが来たり、裏千家のお茶会に行かせていただいたりもします。お茶会では、東大寺や橿原神宮、妙心寺など、さまざまな寺社に行くことができます。普段は入ることのできないお寺やお茶室にも入ることができて、とても勉強になります。そして、お茶会では、開催してくれた人の気持ちに触れることができるので、心が和み、



楽しい時間を過ごすことができます。

茶道部は人との出会い、おもてなしの心、季節を感じられるかわいい和菓子・お花、きれいな着物など、魅力が沢山ある部活です。お茶室のゆったりとした時間の中で一時を過ごすことができる茶道部に、是非一度お越しください。



東日本大震災関連

東日本大震災で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。今後も、さまざまな機会を通して復興支援活動を実施してまいります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

3月16日～

学生有志が募金活動実施



近鉄奈良駅前で募金活動する本学学生

少しでも被災者救援や被災地の復興に役立ててもらおうと、学生自治会や生協学生委員、ボランティア支援総合センター学生スタッフを中心とする学生有志が、駅前や学内で募金活動を行いました。集まった義援金は、日本赤十字社へ全額寄付しました。

4月1日、6日、19日

気仙沼地域へ支援物資発送



お手玉を作る学生有志

東日本大震災で甚大な被害を受けた気仙沼地域への支援を行うため、教職員及び学生に衣類・文具・生活用品等の提供を呼びかけ、現地向けて4月1日に第1便として段ボールにして37箱、6日に28箱、19日に9箱を送り出しました。

寄せられた物資の仕分けには、教職員や多くの学生がボランティアとして参加、品目やサイズ別に丁寧に梱包する作業が続けられ、また19日発送分では、家庭科教育の学生手作りのお手玉100個が、メッセージカードと共に現地へ届けられました。

5月11日

震災ボランティア研修会を開催



講義に耳を傾ける参加者

被災地でのボランティア活動に参加を志願する学生が、教育大生として、被災した子どもたちの力になりたいと、教育実践開発研究センターのボランティア・サポート・オフィスに相談、被災地や避難所で、適切な支援活動ができるようにと研修会が企画・開催されました。

研修会では、長友学長による放射線に関する講義と、市来准教授による子どものこころの理解とケアについての講義が行われ、活動を行うにあたっての注意事項等が助言されました。

3月16日

なっきょん、附属中学校特別支援学級で家庭科の授業に参加



生徒達に採寸してもらうなっきょん

完成したスモックを着て附属幼稚園入園式に参加するなっきょん



生徒たちは、なっきょんの登場に大喜び。なっきょんにスモックを作ろうと、さっそく採寸を開始。なっきょんも、採寸されるのは初めてで、動かないようにやや緊張ぎみ!?

無事採寸を終え、生徒もなっきょんも笑顔で交流を深めました。

3月24日

教育研究支援機構が発足



開所式でテープカットする学長ら

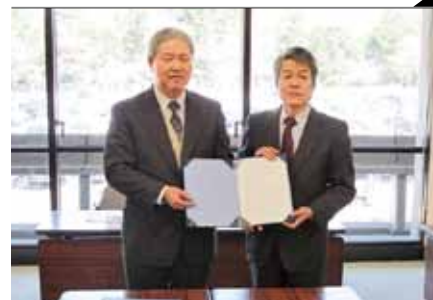
大学附置センターの教育研究活動を機能的に連携させることを目的に、「教育研究支援機構」を発足、開所式を挙行了しました。

同機構は、学術情報教育研究センター、教育実践開発研究センターなど再編を含む既設5センターと古都奈良の文化財・世界遺産を生かしたユネスコスクール活動を初めとするESD教育を推進するための拠点として新たに開設された「持続発展・文化遺産教育研究センター」を総括します。

今後、センターの特色を生かした教育プログラムの開発や地域への教育支援、スクールサポーターなど人材育成事業を通して、学部・大学院教育へのサポートだけでなく、地域の教育力も高めていくことが奈良県教育委員会等からも大いに期待されています。

4月6日

県立高田高等学校と教育連携協定締結



協定書を掲げる喜賓高田高校校長(左)と長友学長(右)

奈良県立高田高等学校との間で「教育実践研究及び小学校教員養成に関し、相互的人的・知的資源の交流・活用を図るとともに、教育の充

実・発展に資すること」を目的とした連携協力に関する協定を締結しました。

今後、高大連携が強化されることで、同高校「教育コース」の生徒に対して教員を目指すための動機付けができるものと期待されています。

今年も市民の方々を招き、公開講座を開催します！

平成23年度 ならやまオープンセミナー (公開講座)

講座名	開催日 / 期間	内容	対象	場所
寧楽夏季講座	9月3日(土)	山内 洋一郎名誉教授 「ひらがな：その歴史に見る謎の数々」 神保 敏弥名誉教授 「見て考え楽しむ数学」	一般市民 (無料)	奈良市 生涯学習センター
童話・英文 「ピーターラビット」を読む	9月5日(月)～ 9日(金)、 12日(月)～14日(水)	「イギリスの家庭教育」の一環として、有名な童話 (英文)「ピーター・ラビット」を読んで解説します。	一般市民 (無料)	本学講義棟
親子で探ろう奈良の世界遺産	10月中旬	大学教員となら観光ボランティアの会が協力し、小・中学生及び保護者に文化財の価値を解説します。	小・中学生 及びその保護者	東大寺・ 興福寺周辺
寧楽秋季講座	11月5日(土)	松村 佳子特任教授 「市民・行政・企業との協働による環境教育」 奥田 喜八郎名誉教授 「英語的発想と日本語的発想」	一般市民 (無料)	奈良市 生涯学習センター
世界遺産のたびヨーロッパ編	11月中旬及び 12月上旬	本学社会教育講座教授による、現地取材に基づいた世界遺産の紹介。海外旅行先としても人気の高い「ドイツ・ロマンチック街道」(11月中旬)と「北ドイツ」(12月上旬)を紹介します。	一般市民 (無料)	本学講義棟

この他にも、新たに講座が開講されることがあります。最新の情報や詳しい内容については、下記ホームページでご確認下さい。
http://www.nara-edu.ac.jp/KK/open_seminar.htm

奈良に息づく仲間たち



自然環境教育センター長
教授 鳥居 春己



ヤセウツボ

ヤセウツボは5～6月頃に花が咲くハマウツボ科1年生の寄生植物で、マメ科やキク科に寄生する。宿主の根から養分を吸収していて、葉は鱗片状に退化している。ヨーロッパから北アフリカ原産の帰化植物で、昭和12年に千葉県で始めて確認され、牧草に紛れてきた非意図的移入だと考えられている。農作物被害もあり、外来生物法では要注意外来植物に指定されている。在来種ハマウツボより花序が細く「痩せウツボ」が名前の由来だが、ウツボは魚ではなく、花が矢を収め背中に背負う筒に似ているため。本学ではグ



キク科植物に寄生している様子

ラウンド脇などの狭い草地に隠れるように咲いていた。地味な花なので、どれくらいの人気が気づいているのだろう。しかし、最近は図書館やその南のビオトープ、パルテノン脇などでも見ることができ、学内で分布を広げているように思える。現在は近畿以東と四国に分布しているが、次第に分布域を拡大すると予想されている。

